



菅波 茂

10月25日、国際協力事業団中国センターとAMDAの共同で実施した「地域健康開発のためのNGO/NPO能力向上」5カ年コースの最終日を迎えた。

平均寿命世界一という国が国民に対して保障している制度の紹介など、日本でこそその研修内容であった。コンピュータによる情報処理など最先端の技術研修もあった。彼らが一番喜んでくれたのはホームステイによって日本の文化や生活に直接触れたことであつた。人と人との直接のふれあいの強みである。改めて関係者の方々のご尽力に感謝したい。

アジア、アフリカそして中南米の13カ国から、実績のある13団体が参加した。パキスタンから参加したNGOはAMDA

## AMDAワールドニュース

Aよりも活動規模も予算規模も大きい。

エイズ予防活動、貧困対策のための小規模融資活動、子どもに夢を与える活動など、現地の事情に応じた工夫と知恵が認められる。日本のNGOにはない問題解決能力を発揮している。

豊富な人材によるハイレベルの方法論と実践経験の蓄積は、公共財である。

「地域健康開発のためのNGO/NPO能力向上」5カ年コースの目的は二つあつた。

一つは発展途上国の健康開発に必要な発展途上国NGOの国際ネットワーク作りである。参加したNGOはそれぞれの国においては圧倒的な存在感と影響力を持つているが、海外に対しては無力である。互いに技術の交流をするだけで能力は確実に倍増するが、これまでその機会がなかった。

二つ目は国連における政策提言である。国連NGOであるAMDAを中心とした問題解決型ネットワークによる、現地事情を優先した政策の形成と実現への努力である。

国連における政策提言こそ最終目的である。「AMDAワールドニュース」が全員のコンセンサスになった。

ネットワークに参加している各国の有力NGOなど、人道援助団体の活動を広く紹介する番組を制作し、メディアに配信する。参加団体は積極的に番組制作に協力する。国際ネットワークの強化と発展の媒体としての役割は計り知れない。ガイドラインを簡潔化すると次の3点になる。

①「多様性の共存」を目的とする②欧米先進国メディアを経由しない発展途上国からの1次情報で構成する③小学生が理解できる内容――。

「AMDAワールドニュース」は世界初のNGOによる世論形成への試みである。

（アジア医師連絡協議会代表 題字も筆者）